歌林良材摘抄　全

113
959

歌林良材集摘抄

夫やまとうたは言葉の花にして
ものゝ感せしむる趣向の外にゑの余情を
あらはしてのちの代にもつたへしむるに
昔はさる事なしに詠する人も
見る同しことくなし今更の代々の家
集を始として三代集など集めて又
ことに詞花言葉の中に歌の林のよき
ものを見出し抄してこれを世に宣家
流として代々歌道の工にあらさりし
六つとせよりて事の中の心をして雲井
にさかり月代の昔妙筆とある
もの中に取りて見るに幼き
童子のためによく心得て甚た
つねにいそしむ事にあらはし
よのよしあしを志して集て
林良材集と名付てまたいにしへ
冬季

門イ13
統959
巻

大正十五年二月
花山院家寄贈

歌林良材嚢抄

虚字言葉

一○ウタテ　ウタ、同

「アマリニト云心也轉ノ字ノ

此ノ心ニテアルベキ歟ト梅ノ花ノ匂ヒ又ハ神ノ上ニ云ヒ出シタル歟

又ハ月ノ光ヤ又ハ人ノ面ヲ云ヒ出シタル歟

ゆきうたてのみ

素性

一○アヤナシ

「甲斐ナキ心也　頭昭ニヤクナキト云心ノ

春ノ夜ノ闇ニアヤナシ梅ノ花色ヲ

ヒトヤ分クラン

躬恒

みなもあるをこそ世人の恋ひ侘ぶ

ものゆへ

一○アヤナ

「アヤナシノシ文字ヲ略シタル

山吹ノ花ヤ咲キ花ノ人ノ

ヤ見ヒ

白ヒ雪ノ風ニ散ルモ梅ノ花ヲ人ヤ

分クラン

一○アヤニアヤニクトニハ詞也アイニクノ

心ナリ

ふしてこそ春ヤ春くあり〳〵ニ村

山も思ひ出ヒ

一○イサヽメ

カリソメ

一○ケニ

夫ヨリマサルト云心ニ勝ノ字ヲ書ケ
清テヨム云ヒ家ニ云誠ニサリケリト
ニーフケニトツカフハ現ニ云心ニ

右勝ノ字ニ

右現ノ字ニ

一○コトナラバ

如此ナラバ也

一○アヘス

トリアヘスノ心ニ不敢トカク思ヒアヘズハ
思ヒ定メヌ心ニ

一○ホニ

頭ヒタル心ニ夫ノ穂ニモ火ニモ帆ニモヨセテ
ヨム

一○ユマユラ

玉ノ声ヒ日本記ニ玲瓏トカク八雲抄ニ云
玉ユラニハシルト云心ニ

一○ユラク

ノフル心ニ

一○ワクラハ

避逅ノ心也又素木立ノ中ニ紅葉ニ花
ヲワクラハトヽ云

一○シノク

凌ノ心ニ浪ヲ凌雲ヲ凌ノ如ニ同

顕昭云侵心也

一○タワヽ

トヲヽ同タハミタル心也

折てさいたちたる白雪

秋萩の枝もたわゝにおくつゆ

一○イマシハ

定家云今ハ云詞ニ文字ヲ添タルナリ

顕昭云今シハシ

今ハトヨメル物とて蟹の衣なるべし

我と打ぬる

一○シツク

石ナトノ波ニユラレテアラハレカヘルヲ云

篠浪ノ新ものゝ海の底ほこ出ぬく

石をも砕と我みる

波ハ雪ヲ出つく花ノ色さやかに居ら

一○ウタカタ

ニテ心アリ一ハ寄ナドヲ云様ナル詞ニ一ハ

水ノ泡ヲ云ヘ後撰歌ハ水ノ泡ニヨセテ詞ヲ

ツヽケタル歟

一○ユタノタユタ

浪ニユラレタユタフ也

一○イテ

万葉集ニハ元ノ字ヲ書テイテトヨメル詞

心ヤ又サテモ抑ニ心ニヨメル哥モアリ

伊勢物語ニ

一○サゾナ

ケニゾナト云心ニ

袖よりはこの世とさを取をくか

姥ゝら姥が山の庵へ行ぬ[illegible]

[illegible]

[illegible]

一○シツハタ

[illegible]

一○ヤヨ

ヤヽト呼カケタル心し

[illegible]

一○イトナキ

暇ナキし

[illegible]

一○ソカヒ

ラヒスカヒタル心ナランカトニソカキクモ

ソカヒキクし

[illegible]

一○イサヨヒ

イサヨフ同ヤスラフ心し猶豫トカク又不知夜トモ書し

[illegible]

一説ニイサヨフ月ハ十六夜月ヲニ日書ニ不知夜トカケリ十五夜ノ月ヨリイサヽカ遅ク出ルニ依テヤスラフトハ云リ源氏物語ニイサヨフ月ニクリナクアクカレンフトハ云リ是ハ十五夜ノ月入方ナレトイヘリ是モ月ノ入ントテ暫クヤスラフ心ニ云ヤ

一○ホトヽシク

テ心アリ一ハウトくシキ心し一ハフトロくシキ心しイツレモ木ヲキル音ライヘリ

わかためある人の心の花の香をぞとく志く
も事よりかる歌

右後撰第十七類云人の元より之志ら
かちよりひほとしまくかんあり侍る
とて侍りけることに

玄はる露譯こそ人てなのとか
とくあるめ事もこうしき

右歌ノ詞ニ其心見ヘタリ 源氏ノ藤裏
葉ノ巻ニモ此詞見ヘタリ

一〇ミカクレ

水ニカクルヽ之後頼朝臣ハ見ヘカクルヽ心ニ
始テヨメリ

川の瀬にあひし玉藻のこゝろにて今
志らまほしきもとうや
なふさへや引人もなくみえかくれせるあや
なしの秋のこゝろをまん

一〇大サム

物ノスカリタル心之定家卿スサフト云詞之
不好讀也

窓近き竹の葉すさむ風の音にいとゞみ
じかき転寝の夢
おなじくは思ひたるもまさりゆく山の
秋風ぞすさむらん　西行
おなじ花にあるよしもあらまし吹く風
もさそふ庭の松風
雁まこそあはれまさらん山里の雨
もさそ冬の雲

一〇カハス

マジヘタル心之定家卿云 枝カハス杯ハ不立年

云〻

志ら雲にまがひし花の香に[illegible]之
る秋の夜の月
思ひやる形見をも手[illegible]
世の秋の月

後撰第十一類云人のもとにつかはしけることに

一〇ハタ

将也當也 あとはの助也

郭公[illegible]あらぬ定まらぬ
[illegible]
かくてさへ[illegible]
思ふとも[illegible]

一〇シカスカ

サスカ之 シトサトハ五音通也

あふみにしも流はさらし志ら浪に海士
[illegible]
まさへし書ふにつく志らむと我家の
その上営そよく
[illegible]　[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
志ら[illegible]
[illegible]

一〇大サメ文

不猶之大サムハ愛也世俗ニ用ゐるにはさ
山高み人もすさめぬ桜花いたくなわびそ
我みはやさん
讀人不知

一○ダレシカモ

誰カモセシ文字ハ詞ノ助也

一○コヽラ

多キ也 ソコラ同ニ

一○イツハトハ

イツト也ハ文字ヲ添ルル也

一○サシナカラ

二ノ心アリ一ハサナカラト云詞ニハサヘ

一○ソタチ

カタフク心ヘ夜ノタチモ夜ノ更行ヲ云

一○カテ

数ナリ

一○ヨルヘ

頼ム縁アルアリヲヨルヘヨルヘノ水モ其心

一説ニヨルヘノ水ハ社頭ノ神水飛入ルヲニト

水ニ用侍ル源氏ニハ神水ノ心モヨリ侍レド

ソレモ相似タレト又縁アル水ニモ用ヒ侍ル

一○ソヨ

サヤ同シソヨク心也

一○夏ナシフトモ

夏ナキサマニイヒナス也

一○コテフニタリ

未トミニ似タル

一○ナニニ思フ

人並ニ思フ

一○ヤサシキ

ハツカシキ　後頼朝臣ハ就世俗之詞也ヤサシキ心ニ用ル也

一○ナキラシ

空ヲキリヲタル心ヲ不キリアヒアマキリテ同也

一○見ナカラ

ミナ、カラシ

一○クハヤスク

クハヤスキ也

一○ウラメツラシ

ウラカナシウラ意ニ同也ウラハ心ヲミシ

一○ウラヒレ

ウラフレ同モノ思ヒ悲ヘタル心ヲシナヘウラフレトニ同シ

秋萩をしからみふせて足引の山下とよみ
鹿の鳴らん

一〇トヽロ
「動也
五月雨の空もとゝろに郭公何をうしとか夜たゝ鳴らん　貫之
天の原ふみとゝろかし鳴神も思ふ中をは
さくる物かは

一〇ハヘナシ
「タヨリナキ也
あふ事は雲ゐはるかに鳴神の音に聞つゝ戀わたるかな
あはれはてにし

一〇タヽル
「谷ニ立也
霧の立まよふ山の峯におく露の
あはれや我代をつくすらん　雅正

一〇ワレテ
「ワリナクシテノ心也一ハワカレテ也
よしの山出て入る三日月の別れてよ
思ひ出もあるらむ
言ねより出る水の岩にせかれて
思ふにはわれてそあふよしも
三日月の在明の月の別れては　ワリナク　そ
出る雲の上もなし

一〇マタキ
「ハヤキ也　速ノ字ヲカク
まつ神ぞ世の花のちらぬに君か学

秋やきぬらん
夜を寒み衣かりかね鳴なへに
いとなく鳴てをちこちの
秋のさくらの秋も白雪はまさりてさける
花のとをさける

一〇ウツタヘニ
「ウチツケト云心ト同又定家卿ハホトト云心ニ讀レ侍ル八雲御抄ニウチタエテ偏ニ云心也タヽハタヒナトイヘルガ如シ文詞也
春雨のふりそめしより青柳の糸のみとりそ色まさりける
あはれとやみし
なかの花に秋の色もまたぬに
をちて我しもまた独の
これはゆめの雨にもなれるを
ゆきを梅にもちる
「源氏藺巻ニウツタヘニ思ヒモヨラテ取給フヘルハ御手ヲヒキウコカシタル是ハウチツケニヤカテノ心也春雨歌ト同
松の葉のちらぬ色もつゝまぬを
つき袖のうへに
あまのかはらをそと渡る　定家
かつらのしたも　同

一〇マトヲ
「間遠也　間近ハ間チカキ也
須磨の浦は浮世なれや塩やき
衣をさをあらみ

一〇イトセメテ
「イトハ最也セメテハセメテノ事ニテル也
いとせめて戀しき時もむはたまの

衣を逆してそきる

一○十八ニ

カラニト云詞ト同シ

我門はしかあせ高抵ちくなる時汝
風を厚いまさう
聖とき世ミロ人ニ金ちくなる恭の
ちかもあれちはう

○実字言葉

一○アサナケ

アサユフト云詞ニアサニケ同朝食ニ

[illegible]

一○玉ノヲ

三ノ心アリ一ハシハシト云心ニ一ハ玉ノ緒一ハ命
ヲ云

中ゝゝ日とゝあすゝ春雨もふりて
物と玉ノ緒ハ
[illegible]
斗あらんといふ
あすゝ玉ノ緒ハ
[illegible]
[illegible]
右ハシハシノ心也

かゝい紙[illegible]
何と[illegible]

右玉ノ緒ニ又命ノ心也

[illegible]
[illegible]

右命也

一○カリホ

三ノ心アリ一ハ借庵也一ハ苅穂ニ
山田する秋のうりはの[illegible]
[illegible]

一○メモハル

三ノ心アリ一ハ草木ノ芽ノハル一ハ目モハル
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

右草木ノメノハル

[illegible]
[illegible]

右芽モハルカ九ハ世之庵日記ニ松原目
モハルヽセトカノモ同

一○ノモセ

野ノ西ニ庭モセ　宿モセ同之

秋[illegible]
[illegible]

[illegible]

一○野ツカサ

野キハ也岸ツカサ共云ツカサハキ心

[illegible]

一○雨モヨ

雪モヨ同モヨハ夜心ニ説モヨハ催ニ

[illegible]

一○イヲヤスクヌル

イコソチラレテイノ寝ラレヌイモヤスク寝ラレヌ皆同イ文字ハ何モヌル心ニ万葉ニハ寝ノ字宿ノ字ヲカケリ

[illegible]

一○アサナユフナ

ニハ心アリ一ハ朝夕也二ハ朝食夕食ニ

[illegible]

一○朝ケ

上ニ同文家ニアハアケトアハ文字ヲ加テヨムヨリ中比ヨリハ好シカラヌヨトヒ

[illegible]

一○アクラ夜

惜キ夜ノ心ニ万葉ニ恨夜又新夜ト書リ

[illegible]

我ムとのさゝ思ひ新敷ちとまち
ちを多まさて多也

一○支ソトモナク

何支ライヒ出ル事モナキ也

[illegible]

小町

[illegible]

家隆

一○メサシ

二ノ心アリ一ハアマノ漁ス人特物入籠ノ一ハメノワラハノ名ヒ

[illegible]

一○ワカセコ　吾児子　ワキモコ　吾妹子　通夫婦也

[illegible]

一○タラチヲ子

タラチメ通父母也

[illegible]

一○シツノヲダ巻

二ノ心アリ一ハ竿ヲウミダルノソラミヲ一ハロイヒヒキ人ヲミヒ

[illegible]

右多クハ戯キ心ヨメリ古ノ戯ノヲダ巻ノ歌ハソノタメニシツケテヨメリ

一○此面カノ面

此面彼面ツクハチニ限ルヘシト云説ハ誤也

[illegible]

源氏云コノモカノモ紫ブルヒ人云ト

一○キリタチ人

八雲御抄ハタテタル人ヲ云一説ニキリ〳〵トエフスレスト云心ト云〻

一○イヤセ

イヤトモ　ワウトモノ心ニ

右詞ニヲヤノヒモリケル女ヲイヤトモワウトモイヒハナテト申ケレハ云〻

一○子リソ

ナハノキ牧木草ノミタラ子リヨリテ云コヒ

一○ミナレ

水ナレハ〻ソレヲ見ナレハ三取ナシテヨメリ

一○心カヘ

我心ヲ人心ニトリカフルヽ

一○意ノヤツコ

コヒニツカハル心也

一○櫻カリ

桜ヲ尋心ヽ此ニカリメケカリ羊カリ皆同

一○オキナサビ

老テナヲサレハカル也

一○ハタレ

雪トイヘトモ殘雪ノ夏ニ聞ユ

一○イノチニムカフ

命ニヒトシキ心ヽ万葉ニムカフハ對ヒテノ書リ

[illegible]

一○コヽカメリ

老テ二度若クナルヽ万葉ニ変ト書リ

[illegible]

一○トシノハ

年コトノヽ万葉ニ毎年トカノ

[illegible]

一○三重ノ帯

身ノ痩テ二重ノ帯ヲ三重ニ千シテ結フ心ヽ

一重ノ心ヲ結ビ常トモ[illegible]

[illegible]

一木ツヽ

水ヨル茅也万葉ニ詞ニ見エタリ

[illegible]

一○タフサ

手也

折ル[illegible]

仏ハ花ヲ[illegible]

一○[illegible]

トウサ木ノ末也木ヲ伐タル跡ニ其木ノ末ヲタテ置事ヽ

[illegible]

一○コノテカシハ

上見ノ手ニ似タルカヽ也説大トキトニ筆ヲ云此草名前花ニ似テ花白ク咲トニリ

[illegible]

右奇ニ俗人ヲ語歌ヽ俗人トハロキヽカヽシキ人ヲニ熟ハカヽハノ葉ノ風ニ吹テ表裏ノ見ニヒタトヘタルヽ

一○アユノ風

越俗語ニ東風ヲアユ風トニリ

[illegible]

一○八十トモノヲ

八十八多心ヽ氏ノヲハ作男也

[illegible]

一○トモノノメキ

ソメキハ騒ノ事ヲ万葉ニ書ノサカシキ心ヽ

[illegible]

あらん我そくやしき

一〇ミヤコノテフリ

ミヤコノフルマヒ也

あまさかる鄙に五とせ住居して都れ
てふり忘られにけり

一〇シ井ノコヤテ

椎ノ木ノ小枝也

たそやも拝て後のむすへる椎のしはやて
のあひおそりし

一〇袖ツク

廣瀬川袖七夕両首ノ心ハ首衛也袖ノ水ニ
ツク也一ハ続也 袖ヲカハス心也

ひろせ川袖つくはかりあさきをやふかめて
我たのむらむ
七夕は袖はくよひの暁は川瀬のたつをとめなむ

一〇山桜戸

桜ノ木ニテ造タル戸也松戸ノ如シ

足引の山桜戸を明置て我待君を
たれかとゝむる
名もしるし峯の嵐も雪とふる山
桜戸のあけほのゝ空　定家

一〇カコトハカリ

帯ニカコト云物アリ鈎ノ字也扱カクハマクル
也カコトハ説々アリ一ハ少事ヲカコトヽ云也又
カコツヿ也又チルヿ也

あひ見まち道のまてあるひら帯ぬるゝと
かことはかりもあひみてしかな

一〇ヒチカサ雨

俄ニ雨ノ降テ笠モトリアヘヌ程ニテ袖ヲカツク
ヲヒチカサ雨ト云ヘ顕昭云ヒサカタヲカキアヤ
マレリト云也

妹か門とゆきすきかねてひちかさの雨もふらなむ
あまかくれせん

右催馬楽妹門歌云イモカカドナカガレ行スギ
兼テヤワカユカハヒチカサノ雨モヤフラナン
シデノ田ヲサアマヤドリカサヤドリヤドリテ
マカランシデノタヲサト云こ此歌モ万葉寄
ヲ本躰ニシテ作レリト見ヘタリ又源氏物語
須磨巻云風イタク吹イテヽ空カキクレヌ
御ハラヘモシハテズ立サハギヌルニヒヂカサ雨ト
カケルヽイトアハタヽシケレバ皆カヘリ玉ハント
スルニカサモトリアヘズト云々

一〇夢ヲカヘト云事

夢ヲハスルニ見ルニヨリテ夢ヲカヘトハイヘリカヘモ
スル物ニナルニヨリテ也

波ともまぬかへもへてみつからかさかへし
うつゝとも素にかゝる夢の夢
我ぬる夢も荒れのかへしとこるよまうはりよ
我そかへすかりける　兼輔

右二首歌後撰集ノ詞ニ其心見ヘタリ

一〇ヌカツク事

ヌカハ額也　礼拝スル丁也

あり花を以人と思ふ如くなり

右尋想思父人ヲ思ハンハ詮ナキ事ニ大事ニテ仏ニソスカツクキニ垣ノシリヘ寄ニハカキテモ作キコトニ也ハ餓鬼ノシリヘ寄ニハカキテモ作リテモアレハ餓鬼ノシリヘトスヘシ

一○カホ花

ウツクシキ花ヘ　カホ鳥同

多清とのの野人の花花をうゑ小ヘつく　家持

いもうゑまとそつも

一○ウケラカ花

ヲケラカ花也ヒラケヌ物也

あさかやま山の井の水の浅くとも君が心を我思はなくに

花の色をうつしとめてやあらふ思ひをそめ

一○ミノシロ衣

ミノヲ着ル（キカリミ着ル衣ヲ云）又吉敬ノミノ代衣ハ身代共聞（侍リ

降雪ふみの蓑衣おきつゝ幸あるを敬行

とゝとゝろうもあるる

山里の蓑もたれ雪をゝ

長ぬ子とゝさこよ

世の為あ長ぬ代衣ハ侍を宝ゆゑ

為も侍ふ人々

一○トヨノミソキ

大青會ノ御祝ノ

あまこゝろ見ぬ人ぬ

も物と思ふとも

○一浦島子ノ説変

水江ニ御島子ト云者ノ釣ヲシテ七日迄家ヘ帰ラサリシ時海神ノ娘ニ逢テ夫婦ノ契ヲ成シカハ則ワタツミ海ノ宮ニ渡リモロ〳〵ノ楽ヲ尽シ程ニ古郷ノ父母ヲ恋シク思フ心ヤ有ケン暫ノ暇ヲ乞シカハ此女玉手箱ヲ授テ再ヒ我元（来ラント思ハヽ努々此箱ヲ明モウナトヽシフ取テ古郷ヘ帰リテ見ケハ元見シ家居モナク親キ者モナカリシカハ怪シク思ヒテモシヤ此箱ノ中ニ見シ世ノ変ヤアルト火開キテ見ケレハ白雲ノ箱イヨリ出テトヨノ方ヘナヒクト見シ程ニ黒カリシ髪モ俄ニ白ケナリ浅間敷姿ニ成シケリ浦嶋子ノ心ハ三年ノ間ト思ヒシカ年数百年ヲ経ル事ヲ知サリケリ此箱ヲ明サフラヘシカハ再仙境ニ帰ルヘキヤアラヘシ故明テクヤシキ事ニ後ニ寄モ読ヘ　又浦嶋子ノ事日本記雄略天皇廿二年秋七月ノ変ニ見ヘタリ大ハ浦島子丹ニ乗テ釣ヲシケルカ大ハ亀ヲ得タリ其亀女ト化シテカハ浦島子ヒカ妻トメ侍リケル則其女ニ従ヒテ海ヘ入テ蓬莱山ニ至ル由見ヘタリ

変化ノ浦島ノ事ハ古ヘ物ニ多クアルヘシ

○一松浦佐用姫領巾麾山変

欽明天皇御時大伴佐堤彦遣唐使ニテ唐ヘ渡リケル時其妻佐用姫名残ヲ惜テ播山ニ登リテキヌヒレフリ其冊ヲ麾キシ依テ夫ヨリ其山ヲヒレフル山ト名付侍リ其変ヲ山上憶良カ読ル歌アリ彼人追和ノ哥カ要集ニアヘメアリ松浦山ハ肥前国ニアリ

出入者と云分とかもさよ姫のあり此れ
[illegible]
海士や海人[illegible]
松浦さよ姫

○一 松浦河鮎乙女事

あさうする[illegible]
[illegible]
[illegible]
あくさまあるき

右憶良カ松浦ノ玉嶋河ニ遊ブ歌鮎釣海人ヲトメ子ヲ見ニ花容並ヒナノ柳眉ヨビフナス誰家ノ子ナトモヅトイフ憶ニハサリシカバ憶良歌ヲヨミテ遣ル則海士乙女返答上ニミルカ如シ又三首読テツカハシケル中ニ

憶良

[illegible]

憶良

[illegible]

乙女

[illegible]

○一 桜児事

春されば[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

右昔桜子ト云女アリ二人ノ壮士ニ思ヒ焦ラレケル昔ヨリ一女ノ壮ナ心モ又和キカタシ偏身ヲ失ンヤト三ツ林中ヘ分入テ木ニ百ノ揖ヲ懸テ終ニ自害シヌ二人ノ男思ノ涙ノ流セ尼里妻ナニトテ各哥ヲヨミテ志ヲ述侍リ上ニミルカ如シ

○一 縵児事

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

一男
二男
三男

右大和国ニ三人ノヲコ有テ二人ノ女ヲ思ヒリ其女名ヲ縵子トナンヒケル此女オモフ心一女ノ身ハ消易キ露ノ如シ三雄ノ志ハ平キカタキ支石ノ如シトモヒノ終ニハナシ池ニ行テ身ヲ投テ失ヌ其時三男カナシミナシミ堪シテ同ク読ル哥上ニミルカ如シ

○一 蒐名屋處女與櫛事

仆生田川ノ水鳥ヲ射支

[illegible]

右三首ノ長歌ノ奇地哥ノ心昔津ノ国芦屋ノ里ニウナヒ乙女ト三女有シヲ二人壮士挑ミ事ヒケリ男ノ名独ノバ[illegible]又男ト云独ノ[illegible]ケリ男ノ志何レモ等シカリケレバ女思ヒ煩ヒテ親ニ暇ヒテ終ニ自害シテ夫ヌ其時二人ノ男モ同ク自殺シケレハ其妻ノ人是ヲハフルトテ女ノ塚ヲハ中ニ置キテ二人男ノ塚ヲハ相並テツケルヲウナヒ乙女ノ塚ノ名ヲ万葉ニ與櫛トハ云リ櫛ノオキツキトハ塚ノ名ヲウツミケルニヤ

万葉十九巻ニモ又長歌アリ其歌ニハ塚ノ上ニ
黄楊ノ小クシヲ差タレバ生ツキテ有ケル由見ヘタリ
福乃寺塚ノ上ノ木ノ枝ナヒケルカモ其心ヲヨメルニヤ
又花山院ノ作ラセ玉ヘル大和物語ニモ此事見ヘタリ
其物語ニ曰昔津ノ国ニ住女アリケリ夫ヲヨハフ男
二人ナン有ケル独ハ其国ニ住男姓ハムハラニナン
有ケル今独ハ和泉国ノ人姓ハ智努トナンニケルカク
テ其男トモ年ヨハヒ顔貌人ノ程只同シ程ニナ
ン有ケル志ノマサランニコソアラメト思フニ志ノ
程モ只同シ様也暮レハモロトモニキアヒヌ物
オコスレハ只同シ様ニオコス何レマサレリト云
ヘクモアラス女思ヒ煩ヒヌ親アリテカク見苦
ノ年月ヲ経テ人ノナケキヲ徒ニ思フモイト
ヲシ独ニ逢ナハ今独カ思ヒハ必ヘナント云ニ女
心ニモ左思フニ人ノ志ノ同様ナルニナン思ヒ煩
ヌルサラハイカヽハスヘキト云ニ其カミ生田河ノツ
ラニ女ヒラバリヲウチテ居ケリカヽリケレハ其後
ハ亡人トモヲ呼ニヤリテ親ノ云ヤウ誰モ御志
ノ同シ様ナレハ此ヲサナキ者ナン思ヒ煩ヒテ侍
ル思ヒ玉ラ様ハ此河ニ浮テ侍ル水鳥ヲイタマヘ
夫ヲ射中玉ヘランニ奉ントテ云時ニイトヨキ丁
ヘトテ射ル程ニ独ハ頭ノ方ヲ射ツ今独ハヲノ
方ヲ射ツ何ト云ヘキモアラス又ニ思ヒ煩ヒテ女

すミ侘ぬ我身なけてん津の国の生田の河は
名のミなりけり

ト読テ此ヒラバリハ河ニ臨テシタリケレハツフリトオチイリヌ
親アハテ騒ク程ニ此ヨハフ男ニ人モヤカテ同シ所ニ陥リ
ヌ独ハ女ノ足ヲ捕ヘ独ハ手ヲ捕ヘテ死ニケリ親イミシク
泣叱リ取揚テノブリス男共ノ親モ聞傳テ来ニケリ
此女ノ塚ノ傍ニ又塚トモ造リテ掘埋ム時津ノ国ノ男
ノ親ノ云様同国ノ男コソ同所ニハセメコト国ノ人ノイカ
テカ此国ノ土ヲハ侵スヘキトテ妨ル時ニ和泉ノ方ノ親
イツミノ国ノ土ヲ舟ニテ運テ爰ニモテ来テナン終ニ
埋ミテケルサレハ女ノ塚ヲ中ニテ左右ニナン男ノ塚トモ
今ニアルカ扨独ノ男ノ親カ着タリケル狩衣ノ袴烏
帽子帯ヲ綱鎌太刀弓ヲモ入テソ埋ミケル今独ノ
親ハ愚ニヤ有ケン左モセス有ケル彼塚ノ名ヲハモトメ
塚トソ云ケル或旅人此塚ノ本ニ宿リケルニ人ノイサ
カヒスル音ノシテレハ怪シト思ヒテ見セケレトサル丁モナ
シト云ケレハ怪シト思ヒ々眠リタルニ血ニミレタル
男前ニ来テ跪キテ我敵ニ責ラレテワヒシク侍
リ御ハカシ暫ク貸玉ハランテ子ツメキ物ノ報ヒシ侍
ラント云ニ恐シト思ヘト貸テケリ夢ニヤアラント
思ヒヽヌレト太刀ハ誠ニトラセテヤリケリトキリ聞
ハイミシウ先ノ事イサカウヽ暫有テ初男来テ
イミシウ喜テ御トクニ年比チメキ物討報シ侍
リヌ今ヨリハ長キ御守リトナリ侍ルヘキトテ此事ノ
初ヨリ語ルイトムツケシト思ヘト珍シキ丁ナレハトヒ
聞程ニ夜モ明ニケレハ人モナシ朝ニ見レハ塚ノ本ニ血
ナド流レ太刀ニモ血付テナン有ケルト云傳ヘ侍リ

○一 井手之下帯ノ事

三侍し井手の下帯行めくりあふせうれしき
玉川の水　俊成
山城の井手の下帯いつしかと結ひし来し甲斐も
なき世かな　定家
[illegible]
めくりあふもうれしき井手の下帯
あふとやこの下帯[illegible]　為家
ぬるゝ袖の[illegible]

是モ大和物語ニ見ヘタル丁く

○一 クレハトリノ事
付アヤハトリクレハトリ

くれはとりあやに恋しくありしかは二村
山もこえすなりにき　在原諸貫

右詞ニ云クレハトリト云アヤヲフタムラ包ミテツ
カハストテ読ルトニアリ是ハ日本紀ニ應神天皇御
使ヲ呉国ヘツカハシテアヤ織ル女ヲ求シ時呉王
四人ノアヤ織ヲ渡セル其中ニシクレハトリアヤハトリ
ト云エ女アル扨クレハトリアヤトハツヽケヨメルアヤハ
クレハトリヨリ初ル依テヤカテアヤノ名ニモ用
侍ルクレハトリハ呉服織アナハトリハ穴織トカ
ケリ二村山ハ後ニ段トニシメソヲ山ヲ取出シ
侍ル

あまてかくはまあるらんあかすともあか
あやのくれこひしらや

[illegible]

右ニ服暑ニハ日本ノ使ノ呉国ニ遣ル聖高麗王ノ所ヘ道ニ入ル比ノ礼波ノ礼志ト云フ人導キ出テ呉国ヘ案内ヒシ人ナリ

同ノ日本記應神記ニ見タリ

○一 葛城王賜橘姓事

橘ノ実サヘ枝ニ付キ其葉サヘ枯ル事ヲ聖武天皇

右聖武天皇天平八年冬十月井手左大臣諸兄ノ未左大弁ニ葛城王ト申侍リシヲ御前ニ在ケル橘ノ賜ハセテ則姓ニ名ヲ賜ハリシヨリ橘氏ハ始リ其歌ハ御製万葉集ニ載タリ

○一 奥列金花山事

[illegible]

右聖武天皇ノ天平勝宝元年ニ道ノ国ノ小田ト云ヒシニテ初テ金ヲ掘出シ侍シ歌大伴家持長歌ノヨミテ奉リシ其返歌三首ノ元依之年号ヲ勝宝ノ二字ヲ加ヘ侍リ

家持

○一 岩代ノ結松事

岩代ノ結ノ松ノ枝ヲ結ヒ置テ幾ヘカ経ヌラン

有間王子

右有間王子ハ孝徳天皇ノ御子ニ齊明女帝ノ御時蘇我赤兄ト心ヲ同クシテ御門傾ケントセシカ紀伊国岩代ト云フ所ニ在テ志ノ遂ケタカラン支ヲ悲ミテ其所ニ在ケル松ノ枝ヲ結ヒテ手向トメ此哥ヲヨミ置テ外ヘ出侍リシ其間ニ赤兄カニカシカ由ヲ御門ヘ申侍シ其条忠ヨリ有間王子ノ謀反ノ一ツアラハレテ終ニ藤白坂ニテ殺サレ侍リ

後ノ人此松ノヨメル哥同ノ万葉集ニ載侍リ

岩代ノ浜ノ結ノ松ノ枝ヲ結ヒ置テ幾ヘカ経ヌラン

後ノ人此松ノヨメル哥ト云フ

人丸

○一 三輪ニルニシノ杉事

我宿ノ三輪ノ山ヲ見ルニシノ杉ノ立ル門

右歌頭昭法師ハ三輪ノ明神ノ御哥ニ申説アレト徒ニ知リカタシ三輪ノ山ノ辺ニ住ケル人ノ説ルナルニシノ哥ヲ本ニテシルシノ杉トテハヨミナラハシメルヨシ拾遺集ニ住吉明神ノ住宣ノ哥トテノセ侍リ

住吉ノ岸ノ姫松人ヨリ先ニ何ヲ待ツ

是ハ三輪明神ノ住吉ノ明神ノ御元ヘ通ヒ玉フ時ノ哥トヒリ

三輪ノ山ヲ人ノ恋ヒ侍ル事ハ我ノ宿ノ杉ノ門ヲ尋ルトヒラ後人ノ恋ヒ侍ル事ハ

右住吉ノ松ノ元ノ門ノ哥ヲ本哥ニテヨメリ是ヨリシテ三輪杉ノ門ニ尋ルトヒラ後ノ人ハヨメル也

三輪ノ山ヲ人ノ恋ヒ侍ル事ハ我ノ宿ノ杉ノ門ニ尋ルトヒラ後人ノ恋ヒ侍ル事ハ

形ハ見ヘネトモ人ノ恋ヒ侍ル事ハ

[illegible]

○一 葛城ノ水路橋事

[illegible]

まくもかつらきの
中さうてくる人のあわ葛城の久米路の
橋は今もとあやうし
葛城や我やは久米の橋つくりゆけ袖は
あけくれはす
岩橋のよるの契りも絶ぬへし明るわひしき
葛城の神
いはきやにほひて来るれはさきこしの
何もしらぬ今ひとつ

右久米路ノ橋ノ因縁ハ文武天皇ノ御世ニ葛城ノ優婆塞ト云人アリ姓ハ加茂氏名ハ小角ト云リ大和国葛城上ノ郡ノ人也全年葛城山ノ岩屋ノ中ニ居テ藤ノ皮ヲ着松ノ葉ヲスキテヲコナヒシカ孔雀明王ノ呪ヲ習ヒテ怪キ験ヲアラハシテ雲ニ乗リ仙人ノ城ニモ通ヒ鬼神ヲモ従ヘテ水ヲ汲セ薪ヲ拾ハセ折シケリ或此葛城ノ峯ヨリ吉野ノカネノ御タケノ間ニ橋ヲ造リテ通ヒ路トセント思ヒテカツラキノ明神一言主ノ神ニ是ヲ渡セト云明神悲ヘナケトモ遁シ方ナクテ大ナル石ヲ運テ橋ヲ造ル此ヒルハ形見苦シトテ夜ニ渡サントシケレハ行者怒テ呪ヲモテ神ヲシハリテ谷ノ底ニ置ツ文武天皇ノ藤原ノ宮ニオハシマシヽ時葛城ノ明神宮人ニ付テ申サク後ノウバソク国ヲ傾シトス早クイマシメラルヘキ由ヲ奏ス御門驚キ給テ使ヲ遣シテ搦シメントシ玉フニ空ヲ飛テカラメラレス縡ニ母ヲ召捕レシカハ行者母ニカハランミテ出来リ則搦捕テ文武三年己亥年五月ニ伊豆ノ嶋ニ流シシカハ流人ニナリナカラ或ハ海ノ上ヲアリキ或日ハ富士ノ嶺ニ通ヒナトシケルトナン後ニハ唐土ヘモ渡リケルニヤ道昭和尚ノ勅ヲ受テ法ヲ求ニ唐土ヘ渡シ此彼行者ニ相タルト云リ一言主ノ神ハ行者ニ縛ラレテ今ニ未トケストモ云リ一言主ノワタシモ果サルニ依テ久米路ノ橋ハ中絶テ杯哥ニモ読侍リ

一アスハノ神ニ小柴サス事

みよりあれは河須波の神に小柴さし
あれはいはゝむ帰りくるまて

右下総国河諏訪ノ宮ト申社ハ神ノ誓ニテ小柴ヲ建テ祈ルナ有ヲ云ヽ

一オソノタハレ男ノ事

みやひをと我はきけるを宿かさす我を
かへせりおそのみやひを
みやひをに我はありけりやとかさすかへしゝ我そみやひをにはある 田主

右大伴ノ田主ト云人美男ニテアリシヲ石川ノ女郎ト云女是ヲ思ヒカケテ謀ニ東隣ノ貧女ノ真似ヲシテ暗キ夜中ニ火ヲ乞ニ来ル田主ハ是ヲ知ラスシテ火ヲヤリテ空ク返シテレハ明ル朝ニ女郎此哥ヲヨミテ遣シ侍リ田主カ返哥モ同ノ集ニ載セ侍リタハレヲハ風流士遊士ナト書リ田主ヲサシテ云リオソハ河ウソト云獣ノ獺ノ字ヲ此獣初ハタハルヽ様ニテ後ニハクヒ合モノナレハ夫ヲ田主ニタトヘテ云ル也

世中はとも名のみ成けり我身こそいつくに
のこまそ宿るらむ 俊頼

一鶯ノ卵中郭公事

うくひすの　かひこの中の　ほとゝきす
ひとりうまれて　なか父に　にてはなかす
なか母に　にてはなかす　卯の花の
咲たる野へを　とひかけり　きなきとよもし
橘の　花をゐちらし　ひねもすに
なけときゝよし　まひはせむ　とほくなゆきそ
わか宿の　花橘に　すみわたれ鳥

右今ノ世ニモ云ル鶯ノ巣ヨリ時鳥ノ雛ヲ得ル事アルト云リ親ニ似サルニ依テサカ父ニハ似テサカ母ニ似ストヨメル也

一鵙ノ草クキノ事

春されはもすの草くきみえすとも我は
みやらん君かあたりをと

右万葉集春ノ相聞ノ哥ノ頭昭云鶏ノ草ノ
キトハ百労ノ草クルフニノ拾ルフクキトコヒテ
万葉ノ哥ノ證類トモ引ヒ侍リ清輔ノ
奥義抄ニハ鶏ノ居ル草ノクキヲ云リ我
家彼草ノキノスヱニアタリ名ル里ニアルトオ
シヘ名事ヲ申侍リ此説ニヨラハ我ニヤラン
君カアイラト意ノ哥ニ万葉ニ載侍ル其便
アルニ似リ八雲抄ニ是有様ノ由云ヘアレモ
所註モスノアル草クキヲサシテシルニ云ル
ヲ後ニ尋ルニ其源モナシトモ云ル心ヲ載侍リ
其便アルニ似タル八雲抄ノ説俊頼朝臣ノ伊
勢ヨリ西侯頭季ノ元送レル哥

君ヲ思フ心ハ千ヒロ山ノ草ノ
ヒロキ心ハ知ラレケリ　俊頼

右顕昭ガ云或説ニ此葉茂テシルシノ草見ヘス
トニ義アリ俊頼ハ其心ニヨメルヤト云リ又モ
スノ草ノキハ鶏ハ特旨ノ皆又イミ有ケリ皆
テヲ取テカヘサリシニヨテ其カハリニ故ル様ノ
物ノ草クキニサシ入サメルタエトイリ是ヲ
鶏ノハヽニヘ比云リ如此ノ諸説ハタシカナル本説
ナシトイヘ比後人取用テヨメル哥モアルニヤ

カリヨ秋ノ雨ノ降ル煙ク草ヲ
ヒロキ山ノ草ノ花　家家

右万葉ノ哥ノアイラトヨメルニヨリテ意ノ心
アル（キヽ）

○一カヒヤカ下ニ鳴蛙事

蚊鹿両説

（庚文）
蛙鳴ク山ノ井ノ水ハ浅クシテ
我ハ思ヒソメシ人ヲ忘レシ
蛙鳴カヒヤカ下ニ鳴ク蛙
ヒロキ山田ヲ作ル人ヲ
見シ山田ヲ作ル人ヲ

右敦隆ガ類聚古集ニ万葉ノ哥ニ首
共ニ是部蚊ノ篇ニ侍リ又六百番哥合俊成
卿判ニ詞ニ山田庵田ヲ守ル人ノ住屋ヲ離居
シテ山中ニ居間蛙ノ声ヲ聞テ別居ノナクサメニ
セル様相聞ノ哥ヘ又カヒヤトニ彼庵ノ下火ヲ
クユラカシ煙ヲ多カラシメテ式今拂毋蚊亦今去
雄鹿也然非ず蚊鹿者緋有両義至于煙炎
者可為一決朝霞ト云ハ夜煙ノ間隙ニ添ケル
朝霞ノ山腰廻ニ不異ニ依テ後ノ哥ニ元相叶
者カ故未風躰モ此是歟ノ注侍リ又頭昭
法師ハ蠶ヲカフ屋ト云説ヲ用ヒタリ俊成之
家説ハ是ノ用ヒ侍ラス

我ハ思ヒソメシ人ヲ忘レシ煙ハ
山田ヲ作ル人ヲ

右是モ蚊火心ヨシレ侍リ

○一山鳥ノ尾鏡事

山鳥ノ尾ノ鏡ハ是ハ
あしひきの山ノ人丸

右山鳥ノカミノ事古ヨリ二様申ス鶏トニ
鳥鏡ヲ己カ影ヲ照シテ鳴トヲリ鶏ハ則山高也
ハ云ヘ山ノ尾ヲ云テスルカ
一ハ山鳥ハ女ヲ一所ニ云ヘ山ノ尾ヲ云ヘスルカ
アル月ニ雄鳥ノハツオニ雌高ノ影ヲウツルアルヲ
見テ鳴ヲカミトヲリ誠ノ鏡ニアラスヲロ雄
也ロハ助語ハツ尾ハ十キオヘ雄ノトキ尾ト意

ヒロキ山ノ尾ノ鏡ハ是ハ
山鳥ノ尾ノ鏡ハ是ハ　俊頼

○一鶏フク秋事

海ヒロキ山ノ鶏ノ秋ノ夜ハ
もとヘ人ヲ思ヒ出ルカナ

右鶏フクハ秋ノ初猟人ノ鳩ヲ取トテ

合ヒテ鳩ノ真似ヲシテフク夏ヲ云ヘ又
獵士ノ庵侍ニモヘイトメントテモ又ニコト
有ト知セントテモ鳩フクヲフルヘ蕣芭蕉
ナリ

海川きしもとゆく秋の山へ　好忠
さらと知らぬ紅葉ちるなり
紅葉ちる秋の風の涼しさは　頭季
秋よりやさぬ人の下紐　頭季
鳩ふく秋萩の上の月　頭季

○一野守ノ鏡事

ちはやぶる野守の鏡なくしては
いかでか君を見るべきなる

右雄略天皇申御門獵ヲ好ミ給テ野ニ出テ獵ニ玉ヒケル御鷹ノ有ヲ申ヲ見ヘ野守ヲ召テ問ヒケル御鷹ノ有ヲ申ヲ賀ミテ爰ニ居ガフタナヒラ指カ如ク空カ申ノ間セヒケレ此野ニ侍リシレ申ヲ奏シテ侍リ水ニ鷹ノ影カ移リテ侍リツケルヨリ野ニ有水ヲシ鷹ノ野守ノ鏡ト申傳ヘタリヨシナカラ見ヘ読ヘ毎名抄ニハ天智天皇ノ御時トカケリ顕昭ハ雄略天皇申説ニ有リ此天皇獵ヲ好ミ玉フ支国史ニ見ヘタレハ此説ヲ用ヒ侍ルニヤ

○一井守ノミルミノ支

ゆくへなみ井守のみるみの支
ちりぬ今ぞ人をしるべき

右井守ハ守ヒ支ト云ヒ也古キ井杯ニトカケニ似テ幼キ虫ノ手足有タルヲ云ヒ花経嘉祥大師ノ義疏見ヘタリイモリ血ヲ取テ女ノ肱ニ塗ル私ノ情アル時流ヒ不落トヒリ依之宮ヲ守ルトハ名有侍リ宮ニ女ノ居ヒ所ヒ女ノ守護ヒ心ニ名有

侍リ又張花ヲ博物志ニ書ハ井守ニ朱ヲカヒテ赤ケヒシテ其血ヲ取テ女ノ身ニ塗ハ一期ノ間ウスルナヒ若キ振舞ヲスヒハ消失ル由見ヘタリ凶典外典ノ説相違アル脱字ノ重ルトニハ女ノミンカスル折ニハキヒル杏ノ緒ノツカラカサナリテ脱盃ルトヒリ扨カクヨメリ

ちりぬ今ぞ人をしるべき　井守

○一錦木支

錦木ハ千束ノ中ニあ
ぬ絶やせ中ニあ
思ひいるまくまくして玉の緒
ふくして逢すもの
法よ千束打はの絶あと
よ思ふ人ハ

右錦木ハ二説ニオクノ夷ノ男女ヨハントテハ文ヲヤルニハクテ一尺キニ木ヲ斑ニ色トリテ其女ノ門ニ建レ逢レト思フ者ハ千束ニ成テ束ヒ也逢ハシト思フヒ束サルニ依テチツカニ成テ朽ヨヒヨヒヒ也此外灰ノ木ヲ錦木トニ説アリ袖中抄ニ記ヒリ

○一狭ノ細布事

さちはひの狭の細布ぬ
あひくるひ

右ケフノ細布ハ奥ノヨリ出ヒル狭布也ケフハ狭ノ字ヲコヘヒシト読ヒル故ニ声ト訓ヲ以テケフノ狭布トハヒリ又細布共ニケフ郡ノ名トニ説アリ誤リヘ奥ヲニケフニ郡ハキヒ名ヲアヒ難キハ
ハメリセキ布ヒル故ニ後日ヨリニ著ヒル所前ニ
豆ニ依テ的合カタキトハヨヒル又毎名抄ニ細
布ハニチノ国鳥ノモニテ織ヒル布ヘ多カラヌ物ニテ

織ル布ニハ、ハタリヒベキトハ云ヘ

○一ヒヲリノ日ノ夏

俊頼

右夏ノ第一ノ詞ニ云ク右近ノ馬ハヒヲリノ日トハ云ヘ元左近ノ將監ハ五月三日ハ左近ノ菖蒲ヲ結ヒ右近ノ馬ハ端午ノ日ニ結ヒ昔左近ノ將監ノ真手結ヒ日右近ノ馬ハ端午ノ日ニ結ヒ俊頼ノ哥ハ五月ノ日ニテカヒヲヨメリ支ヘテ詞ニ云ク六月ノ日ノ右近ノ馬ハ端午ノ日記ヲル心ヘ真手ヲ結ヒ折ヲ云ヒ形ノ様ニ引折ヲ云ヒ

○一反衣見夢事 付神ヲ返スヿ

右衣ヲ返シテ又ヒ返シテ思フ人夢ニ見ユルト云事昔ヨリ云傳ヘル袖返スト云モ同事ヒ

○一河社事

右河社ト云ハ後成卿説ニ川ノ名瀬ニ落流津音高ク聞ユルヲ又鼓ナト様ニ聞ユルヲ云ヘ扨衣キ

古来云ク龍ヲハカク神ノコトナルモ龍ハ河上ニテスルナレハ云ヘ世之集朱雀院ノ御時内親王御屏風ノ哥ニ夏神楽トヨヘリ

右河社ト云ハ付テ上ニイハレト読ル俊頼朝臣ノ哥ノ日傳又聖昭法師ノ説ニ水ノ上ニ社ヲ祝ヒテ夏神楽ヲスルヲ川社ト云類ヒ夏之カ此哥ヨリ云ヘリ

川社秋ヒ

俊成

同

○一海人ノ心ヲカタ〳〵事

ヲ二股ニシタルニテ是ヲ用ヒテリ〳〵スルフイトヽナレトハ去レ〳〵又一説頭脂カ神中抄ニ載メリ定家卿是ヲ用ヒ侍ラス

○一 サノサメノ年ノ事

今ハ〳〵と命そ絶ぬ小名島
さらしちめ

右此哥ハ人智ノ今コソトテ待ニケルカ文連ハ哥ノ也上聞テ久ニカリコサリケレハ跡ウカリハ心ヲ取テカクナシツカシケル女ノ母ノ哥〳〵故サノサメノトハ姑ノ名ノ由歟ニテ説ニ云リトハ老女ノ但家ノ傍案抄ニ讃岐〳〵道頭翁朝臣カ説トテ記サレタルハサノサメノトトハ云ハ早苗ノ早字若艸初草ノ女タヲヤメハソサメ河内女ノメ文字〳〵故ニサノサメノトハ若草ノ年ニ侍ルト聞ヘスニ姑ノ懐ノ支ナラハ詞ニアトウカタリ心ヲ取ルトモ云〳〵常ニナキヲ〳〵ハニリアトウカタリトハノ〳〵カタリトハニヤアトウカタリトモ云〳〵ハソ〳〵ト書メリ

遺ニハソ〳〵ト書メリ

○一 猿澤池ニ身投ケル采女ノ支

ヨ[illegible]あ[illegible]神[illegible]
とみのそのうのき

人丸

友和物語ニ昔奈良ノ御門ニカウ〳〵ル采女アリケリ形イミシウ由ニテ人々ヨリケレ所アハサリケリ其アハ又心ハ御門ヲ限リナクテキ物ニテ思ヒ奉リケル御門百ヲ扱後又モ口サリケハ限ノ心ウシト思ヒケリ篋書ニカリテ遺ケレ御門ハサシモ覚ヒ存ヌサカニ常ニ見奉レハ猶世ニ百ヲ此日ニ出テ猿沢ノ池ニ身ヲ投ルキ心地モナカリケレ世日ニ出テ召リケルヲ支ノ次ニ人ニ奏シテケリ御門カク所知ニ存リケルヲ哀レカリモヒテ池ノ辺ニテホ〳〵御幸ニモヒテ人ニ哥ヨマセモヒケル此人丸ヨ

猿澤の池もけ〳〵るかは
もしかをと日数ふる

トヨミモヒケル扱池辺ニ墓造ラセモヒケルトナン

○一 鵲ノ行合ノ間事

一説カタメキノ行合ノ間支

夜やすもき君を先ぬる
百よりの玉虎

右哥論我上書ニカタメキトアリ奥義抄ニハ鵲トアリカタメキトハ神ノホクラ妻ニカノ様ニテ此哥ハ神ノホクラ妻ニカノ様ニテ此年月多クメニル木〳〵又千木ニ云也此哥ハ往年月多クヲ積リテアル所多クアリケレ其故ヲ公知ラセ奉ラントテ御門御夢ニ見ヘケル哥トヤリ鵲トイフ説ハ天ノ川ニ鵲トヤ鳥ノ羽ヲ並ヘテ橋トナシテ織女ヲ渡ストヤ〳〵其鵲ノ行合アヤ〳〵リテカタメキトハカケリトヤリ但七月七日コソ七夕〳〵キニ冬ニ十ト霜ノ哥ニヨコシ〳〵ハイカヽト聞エ上哥ハソニアル〳〵ニ空ヨリ霜ノクルトヤ〳〵ヨリ霜結ヒテ読ル哥ニ行合ノ間ニ読〳〵鵲ノ橋ニ霜結ヒテ読ル哥ニ行合ノ間ニ読〳〵鵲ノ橋ニ霜結ヒテ読ル哥ニ行合ノ間ニ読〳〵鵲ノ橋ニ霜結ヒテ読ル哥ニ行合ノ間ニ

かゝる夜の星あふ事の嬉しさ
あまの川
[illegible]

志峯

鵲の羽ふるはしの霜
年ふかし

家隆

○一 鴨ノ羽カキノ支

牛鴨ノ心カキ

[illegible]

右哥あ〳〵ニ九男ノ類ヲ女アリケルヨ夜数ハ多ク来ル夜ノ数ハ少カリケレハ夜ヲヌ夜ノ数ノカクヲモ多カルトニテ九ハ〳〵

[illegible]

右是ハ橋トニ物〳〵車ニ是ニ是ヲ用テラリノトリシル物〳〵言男ノ離ヒケル女ノアリケル百夜カノミチノ上ニ取タスアフナキ契ケル故ニ夜毎ニキノミチノ上ニ

チラシテ九十九夜迄数ヲ取テシテ[illegible]ハシニカキスル
事ヲ云シ鴨ノ羽カキ 古今集ニ入タレハ三説アルシ但
シチハシニカキモ古クヨリ云来レルレトモ掛カキ依
テイツレニテモヨリ来レリニ酒ニテ世ニ用ヒ侍ル者ヽ

思あまりやまちのもりの松なれ尾をせんハ　俊成

○一 八橋蜘手文

[illegible]八橋の[illegible]ふれ
[illegible]三世の八橋[illegible]

右三河国八橋ト云所アリ橋ハ八ツ有ル蜘手ト云ハ
橋ノ柱ニ強カラシメン為ニ節遠テ打渡シタル木
ヲ蜘手ト云ヒ又蜘ト云ヒ虫ノ手ハ八ツ有ルトモ云
ソ云テクモテニ切ル思フトヨメルニモ伊勢物語ニ水ノ
クモテニテ橋ヲハワタセリトヤリ是ハクモテニ水流レ
タルヲ云ニヤイサカ其心カヒテ蜘手トモヨヘル
テモヨヘル

あまそそる松ちりをと蜘手ゆくゝ高ほを
ちらすれ　俊頼

○一 紫ノ根ノ衣文

[illegible]紫の根摺の衣ゝ
[illegible]　仲実

右紫ノ根ニテ染タル衣ヲ云ヘシカルフ奥義抄ニ根
摺ノ衣紫ノ衣ヲ着テ人ト寝スレハ汗ニ色カ
リテキヌニウツルヤリケルカ摺キヌニ似タリケレハ人ニ
アフコフ紫ノ衣ノ衣ト云リ此説ハ空家ニ密
勤ニ寝摺ノ衣ヲ心曲書ヒタリ

[illegible]　和泉式部

右是ハ小式部ノ内侍和泉式部カ子ニテ親妻

世ニ聞ヒテ人ノ野ノ道トヨミテ此時ノオホヘサコソ
侍リケム上東門院ノ御腹ノ君達御心ヲ尽シ給ケ
ルニ堀川右衛門督去好色ヘクルヘルニテ恐ヒテコフ
心通ハサレケム女モアカテ世ヲ包ミテ見スモミナ
アヒキトモトコク契ケメ人ニ歌合同ニ文ト聞ヘ
ナカラ今一入ノ[illegible]ホヘナミテヲシ立アラレ給ヒケレ
彼下ニラ思ヘ色ニ出ナトニシ衣ヲ今ハ手ヲ[illegible]シ上ニ
着ントノ給ヘルヲ和泉式アロハ源衣トコソハイハメ上ニ
ニ着ヨフ所ナトニルヽ谷取川ノ心ハヒアクハテタヘ
コトハリナキヌレ衣トニナサントハヨメルニコソ生家ニ
密勤ニ載タリ

○一 室八嶋事

[illegible]　実方

[illegible]今[illegible]

右ハ野岡ノ野中ニ嶋アリ俗ニ室ノ八島トイフ
其野中ニ清水アルヨリ出ル気ノ立カ煙ニ似タル
ヲ云ヘシ

[illegible]室の八島[illegible]

判右基俊ハ八スタクノ五文字ヲ難ニ侍リ
誠ノ理アラサル故ニヤ

○一 末松山事　付志賀松事

[illegible]　志賀の松山

[illegible]
浦ちゝ[illegible]　藤原具風

右昔男女有ケルカ末ノ松山ヲ付テ彼山ニ波
ノ越ヒ世ノ忘レキト契ケルカ程ナシテコト心
付テケルニヨリ人ノ心カハルヲ浪ノ程ナシテコト心ニ
誠ニ波ノ越ヒニアラス間ノ海ノ遥ノキヘルニタツ
浪ノ彼松山ノ上ヨリ越ヒ様ニ見ヒアルクモナ
キナレハ誠ニアノ波ノコヒ世ノ心ハカハルヘシト契

[illegible]

[illegible]

○一 恐フモチスリノ事

[illegible]

右陸奥国ノ信夫郡ニモチスリトテ髪ノ乱シタル様ニスリタル物ノ恐フモチスリトテ也

[illegible]

業平

右武蔵野ノ若紫トヨフ云習シタルト是春日蔵野ハケフハナヤキソノ哥ヲモ古今ニ春日野ト書カタリ思ヒナル

[illegible]

頼政

右哥ハ宇治左臣ノ子ニ和泉式部ノ春日祭ノ使ニ立チシ供人ノ色ノ花ヲ折テキラメキケル中ニ前右馬助藤綱カ子清綱カ忍フスリノ狩衣ヲ着タリケルカ心有テ見ヘケレ前左京大夫次ノ日藤綱カ許ヘ三ヤリケル哥ヘ末世モヲカシキフハテキニケリトナム

清輔

○一 宇治橋姫事

[illegible]

右宇治ノ橋姫トハ姫文明神トテ宇治橋ノトミヲハヘル神ヘ其南ニ宇治橋ノ北ニヲハヘル離宮ト申神ノ夜毎ニ通ヒヲフトテ鏡毎ニ影ニシテ浪立音ノ如ナルトヒ彼辺ノ土民申習ヘリ此哥ハ離宮ノ御哥ト申又隆源阿闍梨申物住吉ノ明神ノ哥ヲ橋姫ノ神ニ通ヲフト申故ニ此哥ハ住吉ノ明神ノ御哥トミリ

[illegible]

右此哥ハ古今集ノ本ニ宇治ノ橋姫トカケルナリ又橋姫ノ物語トミリアリ夫ニ此二首ノ哥ヲカケル但是家ノ物語ト云物アリ夫ニ哥ヲカケル物語ト云用由記サレタリ

[illegible]

家持

○一 武隈松事

[illegible]

右哥ニ武隈ト三ツ三本ノ松アリ依之子モヲルトモ云ハ山サニ出ル所アルヲ云

武隈ノ松ハ三本と云ヘ共ヘ[illegible]

季通

右詞ニ季通カ哥ヲンテキ、テヨミ侍トナン

○一 柿本人麿渡唐事

[illegible]

柿本人丸モロコシニテヨミケル

[illegible]

ひきあけてみやきん

右詞ニモ只ニヘ遣シケル歌ヨメル

○一 三角柏事

神風や三のかしはにことゝひて立をまつとや神はうくらん　後頼

右三角柏トニ云ハ三葉柏トモ云ヘ伊勢大神宮ニテ三ノ柏ヲ取テ占フコトアリ是ヲナクルニ立ハ叶フ不立ハ叶ハズヘ枘立ヲ取テ袖ニ包ミテ喜フヘ日本記ニハ御綱葉ト書リ延喜式ニハ三綱柏トカク国史ニハ三角柏トカケリ又三カシハトヨメリ又水ノカシハトヨメリ

まよひあるみつのかしはに沖の宮のうらうちよせてたつをまつらん

思ひあまり三河のかしはのうきしつみ

右哥ハ三ノ柏ハ水ニ浮フル柏ニヨメルニヤ沈ム悪フノ叶ハヌ心トニ云リ

○一 志賀山越事

梓弓春山近くこえくれはみちもさりあへす花を散らくる　貫之

右詞云志賀ノ山越ニ女ノ多クアヘリケルニヨミテ遣ハシケル

山河に風のかけたるしからみはなかれもあへぬもみちなりけり　列樹

右詞ニ云シカノ山越ニテヨメル之シカノ山越ハ北白河ノ滝ノ側ヨリノホリテ如意嶺越ニ志賀ヘ出ル道ナリ志賀ノ山ヲハ春ニカキラスイツモスルヘ之但堀川ノ次郎百首ニハ春ノ題ニ出ス依之六百番哥合ニモ春ノ題ニトリ堀川ノ百首ヲ例ニヒカルヽ之

名をとゝめしむかしの山のかはらにしくれて秋ちるさゝうらん

右詞云西宮左大臣家ノ屏風ニシカノ山越ニツホサウソクシタル女トモ紅葉ナトアル所

○一 ヌレキヌ事

かきくらしことはふらなんはるさめにぬれきぬきせて君をとゝめん

右古今集離別ノ哥ニ濡キヌトハナキ名ヲ云ト云ヘト其本意ハサニハナラズ春雨ニ濡キヌキセテノ哥ハ一説ニ云人ノ旅ニ出シトニシカ雨故ニ泊リタラハ出シトナシニシテハンシク事ニ成ヘキヘ扨ハカキクラシテフラナントヨメリ

まことにはさくてふ花をぬれきぬのきせてちるらん　貫之

右花ハ咲トニ云ヌルト程モナク散ハサキヌルトニ云名キナルトニ云心ヘ

ぬれきぬと人にはいはんむらさきの根すりの衣うはきなりとも　和泉式部

右哥ハ梂ニナキ名ヲヨメルトキコユ

○一 野中ノ清水事

いにしへの野中の清水ぬるけれともとの心をしる人そくむ

右野中ノ清水ハ播磨国印南野ニ有昔ハヌルクテ冷キ水ニテ有ケル末ノ世ニヌルクナリヌレト昔ヲ聞伝ヘタル物ハ是ヲ尋テノミケル心ヘ雖因哥枕ニハ野中ノ清水ハ本ノ妻ヲ云トイヘリ

我ためはいとゝあさくやなりぬらん野中の清水ふかさまされは

奥義集ニ同様ニ入スル

右哥男ノ本妻ヘ帰リコムト聞テ女ノヨメル之

古の野中の清水見るからにさしくむ物は涙なりけり

○一 四ノ船事

四の舟はやかへりこと申しつゝ我まつらん

[illegible]

右遣唐使ニハ大使副使判官主典ノ四人ノヒアルニ依テ四綱船ノ名アラルヘシ同牧長等ニモ四所トニ詞アリ

○一 篠田杜ノ千枝事

[illegible]

右篠田杜ニ樹木ノ一本カハヒコリテ千枝ニ分レルトヒリ依之篠田杜ハ千枝トモヒフヨルヘシ

○一 尾花カ本思草事

[illegible]

右思草ハ草名ニアラス只草ノ名ニハ[illegible]

○一 濱桜枝手向草事

[illegible]

右尾花ニ交リ咲花ハ定家ニハ龍膽ノ花ノ霜枯ニ交リ咲トヒリ

○一 余吾ノ海織女ノ水アル事

[illegible]

[illegible]

右書ハ三百二十首ノ中ニ七月上旬ノ哥ノ余吾ノ海織女ノ下リテ水アルトテ長ノ松ノ根ニ[illegible]

好忠

○一 蟻通明神事

[illegible]

右清少納言枕草子ニ河ノ世ニテカアリケン事ヲ[illegible]リ此国ノ人ノ東ノ下ニテ[illegible]試ミケル歌ニ七曲ニカリメル玉ヲ中ハ通リテ左ニ穴明キメルカ[illegible]ヲ奉リテ是ニ綿通シテモラントヒルルニ其ナノ人更ニ思ヒヨラサルニ申侍ケリケレ蟻ノトスラテニカリコシ細キ糸ヲ付テアケク穴ニ蜜ヲ塗テ蟻ヲ入レ[illegible]ヨクヒテアナタノロニ出ケリ切其糸ノ母ヲ[illegible]ルフ遣ケレ日本国ニ賢カリケリトテ何ニテ思ヒ通リケレ申侍ハカンタチ大臣ニナセモテ後ニハ神トナリケレヤアリケン其神ハ何ニ三カ如シ又世ニ集ル紀伊国ニ霊下エカリ上ニ馬ノ頭テ死ヌキアリカヒラスルラ道行人々社モトノシルシモ見ヘテ尼心ハイトウタテクヒヒオハスル神ヘサキクモ所ノ申ヤハトニテ[illegible]ケクモナレハ[illegible]ケクスキモヤアラス如何ニセヒトテ手カリ流ヒテ蟻キテ扱モ何ノ神トナン申サルルソトイハ蟻通ノ明神トナン申ストイハカノヨミテ奉ル

[illegible]

○一 姨捨山事

我[illegible]

友和物語ニ信濃国更級ト云所ニ男ハヒケリ若キ妻ニ親ハ死ヌレハ姨ナン親ノ如ク若クヨリ相添テアルニ此妻ノ心ハトウキヤ変クテ此姑ノ[illegible]ルル常ニ悪ミツ男ニ此姨ノ御[illegible]ヲ聞セケレハ昔ノ如クモアラス[illegible]此姨ノ為ニナリ行ケリ此姨イトヤ老テ二重ニテ居タリ是ヲ猶此ヨメ所ラカリテイ[illegible]思ヒテヨカラスヌ[illegible]ツ[illegible]モテイマ[illegible]イテヨトハミ攻ケレハ攻ラレテハヒテサレテント思ヒテ

リス月ノイトアカキ夜ヤトモイサメ〳〵ハテラニタウトキ
ワナスル見モ奉ラントスケレ〳〵限リナク悔テオ〳〵ケリ
高キ山ノ峯ノ住ケレ〳〵其山ノ遥々ト入テ高キ峰ノ雲ノ
ハクモアラズ雪ノ降テケキヌヤウトイフレイヒハ立テケルヲリ腰立
近ク家ニ来テ思ヒカルイヒハ立テ食ヒハ相ンヒケレハイ
テ隠シケレト年来親ノ切ク食ヒヨリ月モイト限リナク恋テオ〳〵ケリ
ト悲シク年ヲ〳〵ケリ此山ノ上ヨリ月モ限リナク恋テオ〳〵ケリ
出ケルヲ詠メテ夜日トヨイモチテレスト生ムヒテキケリ
ケレハクヒ読ケリトヨミテ又レ生ムヒテキケリ
大ヨリ飯山ヲナン焼入テ山ト云ケルトカヤメタメシトハ
是カ由ニテ有ケル賢注蚕副ニ蚕書ヲ引テ此事ハ
事ニ焼カ捨ラレテヨメルトニリサレト大和物語ノ本
トスヘシ又フヒカヲハラ捨テモ又メノニ捨ラレテモ
ヤカニ焼捨山トヨンシモ和漢流例ナキアラズ
雅ケルハカラス摩耳山事ナトヲ引テ之家ハハタ
メ用ラレケリ

○一 常陸帯支

あしたは浜の道のさてあるひとり歩むもと
手もあらんとそ思ふ

後撰拾云常陸ノ国ニ賀場ノ明神ト申神ノ祭ノ日
女ノ遣雅ノ人アヘアル此ニ名ヲリヲ布ノ帯ニ書付
テ神ノ御前ニ置ヘヲカル中ニ又〳〵キ男ノ名カキタル
ヲハ目ヲウラカヘシ夫ノ取ヲ程ニ召ケル帯ナレハヤカテ御前ニ
女見テサモト思フ男ノ名アル帯ナレハヤカテ親クナリスイ〳〵名ナ
テ夫ノ聞テ男カ方カリテ親クナリスイ〳〵名ナ
トノ様ナレ〳〵

○一 玉ハキノ支

[illegible]

此哥ハ万葉集ニ入タル本モアリ又ナキ本モアルト申也
右哥ハ天平宝字二年三月三日侍従ナノ名テ内裏ノ
東屋ニ侍フシテ則主常ヲ玉ヲリテ豊明ノ日ヲ玉フトキ
内侍藤原朝臣宇勅ヲ奉リテ御ニ哥ヲ詠シ詩ニ戦
セシムル此事ハ大伴宿禰家持カヨメル哥ニ此玉ハ
キノ説アリ後撰口傳ハハキト申木ニテ日ノ松ノ
引具テハキ作リテムツキノ初子日ノ日コフ屋ノ
ハケトイヘリ又〳〵物ヲナル故ニ玉ハキト帯ノ
イヘリ又松ノ玉ハキトモイヘリ何モ悟ル説ナシ
又能因法師ノ歌ニ経信ニ語リル説ニ京極ノ
御息女ノ志賀寺ノ老法師奉テ遣サレ申

ケル御息女ノ御手ノ玉ハリテ此哥ヲ詠シケルトニリ
春キ哥ヲ聖ノ詠ヒシモ左モ有ヌ〳〵大方ハ万葉ノ
哥ナレ事ノ外ノソラ〳〵ナレ〳〵

○一 君ノシコ草ノ事

[illegible]

右是ハ家持カ坂上家大姫ニ送ル哥〳〵離絶歎事
後會相聞往返哥トモリ〳〵ハ〳〵テ〳〵キ女ニ
此哥〳〵哥ノ心恋ヒシ人ヒトモエ恋レスト云心〳〵鬼
ノシコ草ハ紫花ノ名ノ物恋ヒヒ草〳〵顕ハ数ヲト
アラン〳〵ウエテ見苦シカラサル草トニリ

○一 ムヤ〳〵ノ関事

[illegible]

右〳〵雲御抜云陸奥出羽国中ニ行カフ山アリ木茂
ノ行末ヤスカラス何ホリウチニテ〳〵トリ行サ
ラヤヤトヲリトヘムヤ〳〵彼山ロニアル関ノ名〳〵
出羽ノ方ニアリ

○一 スカツノ事

[illegible]

寺社めぐりの[illegible]

仏像のあるふさ[illegible]

○一 大和琴兼名花娘子支

[illegible]

右對馬国結石山ノ桐ノマコ枝ニテ作ル大和琴
有娘ニ女化ル其志ヲ其又〳〵ニカ如ニ則逸合モ上ニカ如ニ其此ル女ヨロコフト

見テ異サタリ此文和琴ニハ天手元年十月廿日
使フ以テタテマツルト見ヘタリ中納大納言藤原ニ
アリシ此イト見ヘタリ

○一　カスヘケス又

片設ト書リ物ノアリ一ニウケタル心ハ又カタク
マケル心モミヘタリ

春ハ来ぬ梅の花の匂ひ　梅の花の
ちるこそ今日は

世尊ハ梅ノ花ノ咲程ニ桜ノ花ノ片ケタリト
云又桜ノ花ノ咲設ケル心モ叶ヘル

○世一宗小三字修

[illegible]

○[illegible]三写百三宗[illegible]

[illegible]

○一首中同テ三ハ有二分

[illegible]

右又文字二アリ

[illegible]

右三文字二アリ

[illegible]　家隆

[illegible]

右ヌルノ字二アリ

[illegible]　讃岐

○不言其物歌詠用許

[illegible]　藤原俊成

[illegible]　伊勢

○有二説哥共為本歌用之事

[illegible]

[illegible]　業平

[illegible]　俊成

[illegible]　俊成

[illegible]

[illegible]

右二十五ヒニテ座上ノ心ハエル

○無同文字哥　定家

世の人の見め山路入人は思ふ
[illegible]

○本哥第三哥ノ第一二句ニナシテ
読ル哥

三吉野の山もとゝゝて白雪ふる
[illegible]

世[illegible]

○本歌一二句ノ第三哥ヲ
読ル躰

[illegible]

○取本歌一句躰

[illegible]

○年歌二句三句五句置所歌

家隆

俊成女

○本歌ノ音詞ヲ引違用躰

○本歌ノ意ニ贈答セル躰

○本歌ノ意ニ題答セル躰

立田川紅葉みだれて流るめりわたらば
錦中やたえなん
立田山嵐や峯によはるらむわたらぬ水も
錦たえけり
なれあらし人ぞさらにや津の国の難波
もろこしの舟のよるべの入江を
津の国の難波の春は夢なれや蘆の枯葉に
風わたるなり
君がため春の野に出てわかなつむ津の国の生田の森の
秋の初風

右歌ハ新古今集ニ入レ正徹ガ一条院ノ
時代ノ人ト見ヘタリ故ニ本歌ニ取ヘタリ
まだしらぬ人をはじめて恋ふるかな津の国の生田の森の
秋はきにけり　家隆
津の国の生田の森の時雨ともなぐさめられぬ
秋をとふ浦　仝
秋風にまたこそあらめ津の国の生田の森の露の下
の明ぼの
小夜ふくるまゝに汀やこほるらん遠ざかりゆく
志賀の浦浪
志賀の浦や遠ざかりゆく浪間より氷て出る有明の月　家隆
花の香を霞にこめてみえずとも匂ふ春の
山かぜ
花の色はそれとも見えぬ春霞匂ひをだにも
思ふ人
色よりも香こそあはれとおもほゆれ誰が袖ふれし
神ぞしる春の夜の月
梅が香をさかりにすぎて宿の梅の[illegible]
あらたまの
梅の花たが袖ふれし匂ひぞと春や昔の月にとはゞや
風そよぐ[illegible]
ちりぬらん

○本歌ノ隔句ヲ続ケテ読ム躰

梅が香に昔をとへば春の月こたへぬ影ぞ袖にうつれる
霞たつ春
青柳の糸よりかけて春の山
時雨の雨そめかねてけり山城の常磐の杜の槙の下葉は　人丸
露時雨もる山かげの下紅葉ぬるともをらん秋のかたみに
なく声も
降雪に空もひとつにかすむ春
のあけぼの
青柳の糸にぬかれて白露を玉とみるかな
白雲も時雨もいくへかゝる山
秋ふかき[illegible]
思ひ出て[illegible]
[illegible]
[illegible]

○取用本歌物語意詞支
[illegible]
[illegible]
[illegible]
の香のみして　定家

アヽノサカテウツヽ
[illegible]
[illegible]　定家
[illegible]
[illegible]
[illegible]　定家
[illegible]
[illegible]
のまれ草の枕や　仝

○取用詩意事

文集嘉陵春夜詩ニ明月暗離人　定家

○庐山夜雨草庵中　俊成

晋王子猷山陰ニ在テ雪夜舟ニ乗テ友ヲ尋テ帰リシ支アリ

○林間煖酒焼紅葉　定家

○雲夢八澤ニ名也　定家

○影落林中五老峰　定家

○陟彼高崗我馬玄黄　全

註馬病則黄

○醉悲涙灑春林中　全

白樂天於冊中逢元微之時ニ号ス

○三秋而宮漏三長空階雨滴万里　定家

而郷園何有落葉窓深

○鶴鳴九皐声聞于天　基俊

○興ヲ万ニシテ意ヲ巧ニヨメル哥

まとゐに葉くさき　定家
風わたるあさちかすゑの小萩原まこそ来り
露けきはしるたもとにおく露の　仝
夕くれは荻の上こそあはれなれまた
志ら／＼と秋風そ吹く袖さらに出
旅衣袖の風やいかならむまた／＼いはん
し露やとはしにもあらしのやまかせ
見よりけふとゝめしかもや猶さやけき夜半そ　文
峯の白雲を
さゝちやまことにおもひにまつ清井ま
とも言ひ侍くま

右山上憶良在大唐思故郷歌之

秋の色をおくりむかへてあしたゆくしか
小田の露にやとりしあき　フナシヘテ意ワスルヽ
外山とてよそにも見えし高嶺なる夜かさ
しれ侍る月影のみそ春の言ぬるなり
浪のまにまに月の影やかくすらむ
花乃ころ猶しのゝめにまかせる
知るへなし行方もしらぬ海のはま
萩にをく白露の玉袖をぬらす風
せなし秋の袖ふりはへて月毎の涙とを
唐衣袖にうつるや山の月かけもとよ
またぬ池にうつる月影
春出てぬるや川辺のしのゝめの袖の袂
つゝむ秋の夕風

右万葉哥二首アリ一云

秋のゝぬるや川辺のしのゝめのあけ
ころも露ぬれてしほりきつゝ

又云

秋しのぬるや川辺のしのゝめに思ひてぬ
まさにあはんとそ

二首共ニヌルノ詞ハ涙ノ字ヲカケリ川ヘナレハヌル、
心ニヤ定家ノ哥ハ寝心ニヨメリ草木モ夜ハヌル
トアルハ涙ノ字モヌル心ニ通ヒテカケルニヤ覚束
ナキ猶可尋之

忘れしの心のうちにありあけのよその名
たつ／＼とふかき涙の袖もかはかて
とのみ山のはの宿にあかしつゝもまつそれとそ
いかに言そかはし

右拾遺愚草ニ載タル哥也

○字面ニハ見エサレドモ下ニハミテ意
歌ニナル事

又も見ん秋をも知らす行月の鳴て世を
ゆめ見るのあはれなり
あはれなり海士の海辺の月かけの手まくら
いつまてかくるしきわかれを　俊成
あはれ世のはかなき人をまつとてもかき
出づる雲ゐの月

右ノ二首ノ詞ニテ皆意ノ哥ニナレリ

白浪の跡なき方に行舟も風そたよりの
しるへなりける
志るへせよあとなき浪に漕舟の行衛も
志らぬ八重の汐風
梶をたえおもひの湊よりも舟出ようも
志らぬ沖の汐風

右初ノ一首ハモノ字ニテ意ノ哥ニナレリ後ノ哥ハ
シルヘセヨ又便リモシラヌ詞ニテ意ニナレリ

以下全て

白　紙

早稲田大学図書館
011888007921